

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第228集

周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂下北原遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2014

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第228集

# 周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ

長野県佐久市長土呂下北原遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2014

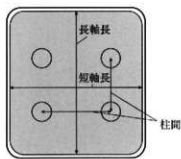
佐久市教育委員会

## 例 言

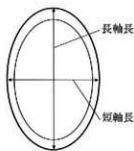
- 1 本書は佐久市による平成26年度斎場施設建設事業（進入道路築造及び代替地の造成）に伴う周防畑遺跡群下北原遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市（環境部新クリーンセンター・斎場整備推進室）
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ（SKHⅡ） 佐久市長土呂
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡 例

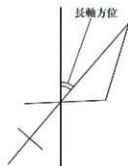
- 1 遺構の略称は以下のとおりである。  
H - 竪穴住居址 D - 土坑 P - ビット
- 2 挿図の縮尺は以下のとおりである。  
遺構 - 竪穴住居址・土坑・ビット 1/80  
遺物 - 土器・石器 1/4
- 3 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 4 遺構の標高は、水糸高を標高とした。
- 5 調査グリッドは4×4mである。
- 6 遺物表中の〔 〕は推定値、〈 〉は残存値を表す。
- 7 スクリーントーン表示及び遺構の計測、長軸方向は以下のとおりである。



竪穴住居址



土坑



長軸方位

# 目 次

列 官・ 凡 例

目 次

第 I 章 発掘調査の経緯	1
第 1 節 発掘調査の経緯	1
1 開発事業と保護協議	1
2 文化財保護手続き	2
3 調査体制	2
第 2 節 発掘作業の経過	3
1 発掘作業	3
(1)遺跡の名称と番号	3
(2)遺構の名称と記号	3
(3)調査叉の設定	3
(4)調査の方法	3
(5)日誌	3
2 整理作業	4
(1)整理の内容	4
(2)資料の収納	4
(3)日誌	4
第 II 章 遺跡の立地と環境	4
第 1 節 地理的環境	4
第 2 節 歴史的環境	6
第 3 節 発見された遺構と遺物	10
第 4 節 基本層序	10
第 III 章 遺構と遺物	13
第 1 節 竪穴住居址	13
第 2 節 土坑	13
第 3 節 ビット	15
第 4 節 遺構外遺物	22

写真図版

抄録

## 第I章 発掘調査の経緯

### 第1節 発掘調査の経緯

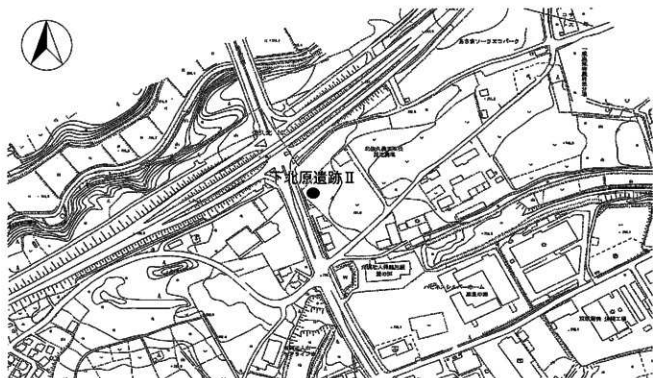
#### 1. 開発事業と保護協議

周防畑遺跡群は佐久市長土呂に所在し、佐久地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に挟まれた南北方向に細長い台地上（田切り地形）に展開する、弥生時代から中世に至る複合遺跡である。特に遺跡群南の佐久平駅北側周辺地域は、遺跡の密集する地域として周知されており、道路改良、区画整理事業、店舗建設等に伴う多くの発掘調査が実施されている。調査対象地は、遺跡群北方の、南に向かって緩やかな傾斜を示す台地北西端部に位置し、標高は737.5m内外を測る。開発地域近隣における代表的な調査としては、北方の田切り対岸において中部横断自動車道建設に伴い原埋蔵文化財センターが実施した鎌田原遺跡の調査があり、古墳時代前期及び平安時代末の住居址等が発見されているが、遺跡群南方の遺跡密集地に比べると希薄な地域である。

今回、佐久市環境部新クリーンセンター・斎場整備推進室による斎場建設、進入道路築造及び代替地の造成事業に伴い、開発地域一帯が周防畑遺跡群に含まれることから事業課と文化財保護協議を重ね、試掘・確認調査を実施する運びとなった。平成24年12月には斎場建設予定地、平成26年3月には進入道路部分及び代替地の試掘・確認調査を実施し、後者から堅穴住居址・土坑等の遺構が発見された。そのため再度文化財保護協議を行い、遺構の発見された進入道路及び代替地部分の発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施した。



周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ位置図 (1:50,000)



風防畑遺跡群 下北原遺跡II位置図 (1:5,000)

## 2. 文化財保護手続き

平成24年10月 2日

土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知 (94条書類)  
(斎場施設建設)

平成24年10月15日

周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について (通知)

平成24年12月 5日

試掘調査等終了報告 (県・開発主体者)

平成25年12月26日

土木工事のための埋蔵文化財発掘の通知 (94条書類)  
(進入道路築造及び代管地の造成)

平成26年 1月20日

周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について (通知)

平成26年 3月13日

試掘調査等終了報告 (県・開発主体者)

平成26年 6月 3日

発掘調査終了報告

平成26年 6月 3日

埋蔵物発見届

平成26年 6月25日

埋蔵文化財の認定通知

平成26年12月

願与申請

## 3. 調査体制

調査受託者

佐久市教育委員会

教育長 土屋盛夫 (～平成26年5月) 榎澤晴樹 (平成26年5月～)

事務局

社会教育部長

山浦俊彦

文化財課長

三石宗一

文化財調査係長

比田井清美

文化財調査係員

小林真寿 富沢一明 上原学 神津一明 久保浩一郎

嘱託職員

林幸彦

調査主任

森農かよ子

調査担当者

上原学

調査員

赤羽根充江 浅沼勝男 磯貝隼子 岩崎重子 岩松茂年 小幡弘子  
神津千春 小島真 小林節子 中澤登 羽毛田利明 比田井久美子

## 第2節 発掘作業の経過

### 1. 発掘作業

#### (1)遺跡の名称と記号

遺跡は佐久市長土呂に所在し、事業予定地が佐久市遺跡詳細分布図により、周防畑遺跡群に含まれている。また、周辺地域で道路改良事業等に伴い、周防畑遺跡群下北原遺跡の調査が実施されていることから、本事業に伴う発掘調査の遺跡名を「周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ」と名付けた。略号は「SKHⅡ」とした。

#### (2)遺構の名称と記号

H－壁穴住居址（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱穴・伊・カマド等を設けた住居と考えられるもの。佐久市では明らかに平地住居と考えられる遺構は発見されていない。）

D－土坑（地面を円形や方形に掘りくぼめた、陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられるもの。ピット・壁穴状遺構と区別するため、径または長さ0.9m以上2.5m未満を土坑とした。）

P－ピット（地面を円形や方形に掘りくぼめ、柱状のものを建てたと思われるもの。土坑と区別するため、基本的に径が0.9m未満とした。）

#### (3)調査区の設定

調査区上に国家座標（世界測地系）に基づく40×40mの大グリッドA～Cを設定し、これを更に4×4mの小グリッドに分割した交点に、木製の遺構測量用基準杭を打設し、頂部に釘を設置。グリッド名は、大グリッド（A～C）を北から南方向にひらがな（あ～お）、東から西方向に数字（1～10）を使用して小グリッドに分割し、グリッド名A-あ-1グリッドのように設定した。

#### (4)調査の方法

調査は、重機により遺構確認面まで表土を除去し、排出土は事業予定地内の指定場所へ移動した。その後、人員による遺構の遺構検出作業を行い、基準杭の打設を行った。検出した遺構は命名後、調査を開始した。通常住居址の掘り下げは、4区画（Ⅰ～Ⅳ区）に分割し、対角のⅠ・Ⅲ区を床面まで掘り下げ、セクション図作成後、層ごとに床面まで完掘を実施するが、今回は小規模住居であったことから、2分割で掘り下げを行った。床面検出後は、壁溝・ピット等を確認し掘り下げた。写真撮影、平面図作成を実施し、住居址掘方は、掘り下げ後、写真撮影及び図面の追加作成を行った。遺物は、地区ごとに取り上げた。遺跡・遺構の全体写真は各遺構の調査が終了した時点で撮影した。遺構の平面図作成は調査区内に設定した基準杭を利用した遺り方測量により、調査担当・調査員が実施し、縮尺は1:20を基本とした。写真撮影は担当者が行い、デジタル一眼レフカメラと35mmフィルム一眼カメラによるカラーリバーサルで行った。

#### (5)日誌

平成24年11月27・28日	斎場建設予定地の埋蔵文化財試掘等調査。
平成26年3月10～12日	進入道路及び代替地の埋蔵文化財試掘等調査。
3月13日～	文化財保護協議。進入路及び代替地部分において遺跡の広がりや確認された地域の発掘調査を実施する運びとなった。
4月30日～	重機による表土除去・駐車場整地・廃土処理作業開始。 簡易トイレ・ハウス等設置。遺構検出作業。
5月2日	廃土排出路整備作業。
5月7・8日	遺構検出作業。機材搬入。
5月9・10日	砕石搬入・整地作業。
5月12・13日	遺構検出作業。
5月14・15日	基準杭設定。遺構検出作業。遺構掘り下げ。（III・D4・D5等）
5月16日	H1・D1～D8・ピット掘り下げ、図面作成、検出作業。
5月19日	H1・D3・D8掘り下げ。ピット・土坑平面図作成。全体清掃作業。
5月20日	全体清掃作業。調査区全体写真撮影。一部機材搬出。
5月21～23日	ピット平面図作成。一部機材整理作業。
5月26・27日	重機による遺構掘め戻し及び調査区の整地作業。
5月28～30日	簡易トイレ・ハウス等撤去作業。器材搬出作業。

## 2. 整理作業

### (1)整理の内容

整理作業は現場作業雨天時及び終了後に図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合、遺物実測作業、遺物写真撮影、割付本作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・図面収納作業を実施した。

遺物実測は調査員が1/1で鉛筆実測したものを、1/2でトレースし、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/4とした。

遺構図版は、1/40で鉛筆による仮割付を行った後、製図ペンにてトレースを実施し、報告書掲載時の縮尺を基本的に1/80とした。

報告書の原稿はマイクロソフト社製「ワード」、表原稿はマイクロソフト社製「エクセル」を使用し、遺構・遺物写真撮影はニコンD90を使用した。

### (2)資料の収納

作業が終了した図面は、原図・印刷用図版一式をファイルに収納、写真はアルバムに収納したネガ・データと共に文化財課耐火収納庫に保管した。遺物は、報告書掲載図版と照らし合わせ、遺構ごとにコンテナへ入れた後、報告書使用遺物と未使用遺物を分けて文化財課遺物保管施設に収納した。

### (3)日誌

平成26年 5月 8日～10月2日

図面整理・図面修正、写真整理、遺構・遺物図版作成、遺物洗浄、遺物注記、遺物接合・補修修復、遺物実測作業、遺物写真撮影、割付本作成、原稿執筆、印刷製本、遺物・図面収納作業実施。

10月 3日～

12月19日

佐久市埋蔵文化財調査報告書第228集 周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ刊行。

## 第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

佐久地域は、周辺を山地台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その

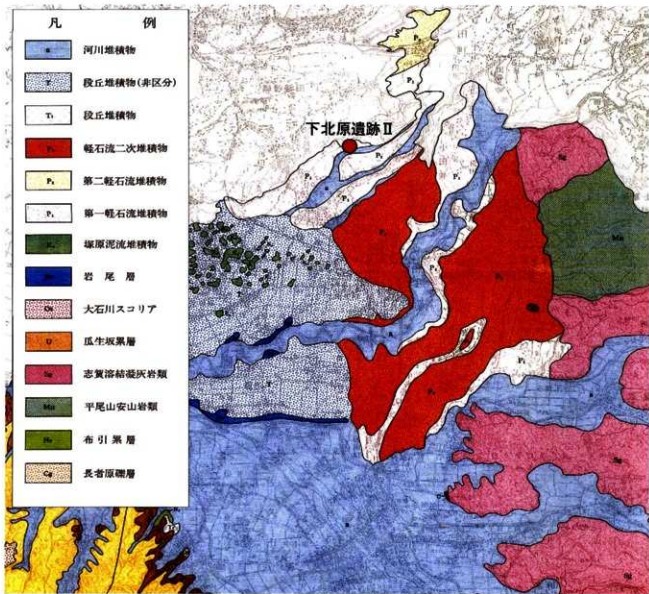


佐久平北部地域航空写真（南から）



後野沢付近から流れを北西に変え、髷科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に貫流する。この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地状の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができる。志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間山の噴出物である火砕流軽石流と降下火山灰が厚く堆積し、雨水による浸食によって、浅間山の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り地形）を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主となり地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。



佐久市地質図（佐久市志自然編から）

ここで、下北原遺跡IIが所在する佐久市北部地域における環境の成り立ちを若干述べてみたい。地質構成の基本となっている浅間山は黒班山・前掛山・中央釜山の三重式成層火山で標高は2,568mを測り、現在も数年ごとに小規模な噴火をくり返している。近年で記憶に残る噴火は、平成16年（2004）に中規模噴火が発生し、空高く立ち上る黒煙と共に周辺地域に火山灰を降らしている。

浅間山の歴史をみると、噴火口の東に位置する黒班山は、最盛期には、現在の浅間山をしのぐ標

高2,800mを測る大型の成層火山であった。しかし、東側半分以上を失う大爆発によって、その姿を失ってしまった。このとき、大量の土砂が西側を除く周辺地域に流れ出している（塚原泥流）。黒班山の南方には特に多くの土砂が流れ落ち、佐久地域では塚原・赤岩・平塚地域周辺まで到達し、地表は凹凸の激しい地形へ変貌したと推察される。

黒班山が崩壊した後、現在の浅間山の姿に成長する過程で多量の噴出物によって佐久市北部地域は埋め尽くされ、その厚さは20～30mに達している。少なくとも2度に渡り軽石流が堆積したと考えられ、第1、第2軽石流（P1、P2）と呼ばれている。これが泥流によって形成された凹凸面を平坦化し、新たな生活面をつくり出した。泥流の先端地域にあたる塚原・赤岩・平塚帯には泥流の名残を現在も見ることができ、周辺で点々と存在する小高い墳丘は、泥流の最も高い部分が軽石流に覆われることなく残った残丘である。古墳時代には、古墳の土台として多く利用され、一帯ではいくつもの古墳群が形成されている。

この軽石流によって平坦化された広大な台地は、雨水等の浸食に弱く、長い年月によって深く削り取られ、いくつもの細長い台地に変貌させた。これを田切り地形と呼んでいる。佐久市北部地域の遺跡分布状況を見ると、この浅間山の麓から緩やかに傾斜する細長い台地上に多くの遺跡が所在している。

今回、調査対象となった周防畑遺跡群下北原遺跡Ⅱは、浸食谷（田切り地形）に挟まれた南北方向に細長い台地北西端の標高737.5m内外に位置している。

## 第2節 歴史的環境

旧石器時代～周辺地域において確認された遺跡は認められない。市内では、佐久平周辺の丘陵地帯において遺跡が発見されている。東方の香坂川流域に展開する八風山遺跡Ⅱから始良Tn火山灰（AT）・ハケ岳4テフラ降灰以前の石器群が、八風山遺跡ⅣA～C地点では、付近で産出するガラス黄安山岩を使用したの石槍製作跡が、発見されている。また、南部の蓼科山麓に所在する、立科F遺跡においても始良Tn火山灰（AT）降灰以前の石器群が発見されている。

縄文時代～周防畑遺跡群内では、南西方向の台地先端付近で行われた道路改良に伴う調査から後期の遺物が出土し、近隣では浸食谷を隔てた南に位置する芝宮遺跡群から土器片が出土しているが、発見される遺構・遺物は僅かである。比較的まとまった遺構・遺物が発見されているのは、北西の浸食谷を隔てた台地上に所在する西近津遺跡群である。集落住宅築に伴う西近津遺跡Ⅶ（8）からは、中期末～後期の土坑と遺物が確認され、中でも後期掘之内式深鉢・土偶・石棒・石剣は、状態も良好で貴重な資料である。また、道路改良工事に伴う西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（9）の調査からも中期後半～後期の土坑、遺物が発見されている。西近津遺跡群周辺では一定の遺構・遺物は認められるが、住居址は未だ発見されず、集落が形成された形跡は今のところ確認されていないのが現状である。佐久市内において、集落が形成される地域は、いずれも佐久平周辺に張り出す丘陵地帯末端付近の台地上及び丘陵地を背負った河岸段丘上から発見される傾向が認められる。周防畑遺跡のような平坦地では、発見される遺構が土坑・陥凹といった遺構に限定されることから、本格的な集落は形成されず、狩り場的な使用がされていたと推察される。

弥生時代～前期は近年発掘調査例は確認され始めているが、佐久市全域をみても数は少ない。代表的な遺跡は、南東方向の湯川右岸に下信濃石遺跡（57）が所在する。この時期としては比較的まとまった遺物が出土し、土器底部2点の放射性炭素年代測定では2,400±30、2,440±30という年代が得られている。佐久市内では中期後半から河川沿い及び低地周辺の微高地上に大規模な集落が形成され始めるが、周防畑遺跡群内では本格的に集落が増加するのは後期になってからのようである。南西方向の微高地先端付近で道路改良に伴い行われた若宮遺跡Ⅳ（13）、遺常遺跡（13）、南近津遺跡Ⅲ（13）、宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ（13）の調査では後期の遺構・遺物が多数発見されている。また、高速道路建設に伴い西近津遺跡群内で行われた発掘調査では、長辺18mを測る後期の大規模住居址が発見され、注目された。中期後半の遺跡は、やや南方の湯川沿岸地域に沿って形成されたようで、右岸の北西の久保遺跡（48）、西一本橋遺跡（49）、左岸の根々井芝宮遺跡等、多くの遺跡が存在する。

古墳時代～まず集落だが、前期は、弥生時代中期後半から急激に遺跡数が増加したにもかかわらず、発見される遺跡数が激減し、発見される集落は小規模である。本遺跡で発見された住居址1軒は、この時期と考えられる。周辺では南西の浸食谷を隔てた北近津遺跡Ⅱ（10）からS字状口縁を持つ壺を伴う弥生時代末～古墳時代初頭の住居址が数軒発見されている。また、黒塚蔵文化財センター

が中部横新道建設に伴い実施した近津遺跡群内からは、前期前半の住居址等が比較的多く残存している。遺跡数が増加するのはカマドが生屋内に導入され始める中期後半（5世紀後半）になってからである。本遺跡群内では後期になり、南近津遺跡（13）、若宮遺跡（13）、宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ（13）等において遺構が多発発見されるようになる。

佐久市における古墳は、河川の段丘縁部及び佐久平の厩辺部からつき出した丘陵地の尾根上から緩やかな斜面を中心に存在する。本遺跡群内では現在注下に埋もれた可能性はあるものの、地上での観察で古墳は確認されない。周辺の遺跡群では、やや離れるが、南西方向の千曲川左岸に広がる台地上に下大豆塚古墳群（39）、東注下古墳群（40）、大豆塚古墳群（41）、家地頭古墳群（42）、廻小石古墳群（43）、塚塚古墳群（44）等多数の古墳が所在する。これらの古墳群は、厩辺地域に残存する浅間山（黒冠山）の山体を吹き飛ばす噴火によって発生した泥流の残丘を利用して構築されているものが多い。調査例は、昭和50年には家地頭1号古墳の調査が行われ、破片資料ではあるが当時正式な発見としては初となる埴輪（土筒埴輪・形像埴輪）が出土し、注目された。昭和56年には家地頭古墳の北東に位置する下大豆塚1号・2号古墳の調査が行われた。1号墳は石室の一部を残す程度まで破壊が進んだ状態であった。2号墳は周辺地帯特有の浅間の噴火によって形成された流山の残丘を利用して構築され、石室が一部露出し、天井石が崩落した状態であったが、1号墳に比べ良好な状態を示している。平成3年には藤塚古墳4・7・8・9号墳の調査が行われ、石室内から金属製品（直刀・金環等）、玉類（水晶製切子玉・丸玉等）が出土した。

また、浅間山の噴火を誘発する湯川の段丘縁部及び東方の丘陵斜面付近にも古墳が認められ、横根古墳群、鉾塚古墳群（59）、北西の久保古墳群（48）等が所在する。

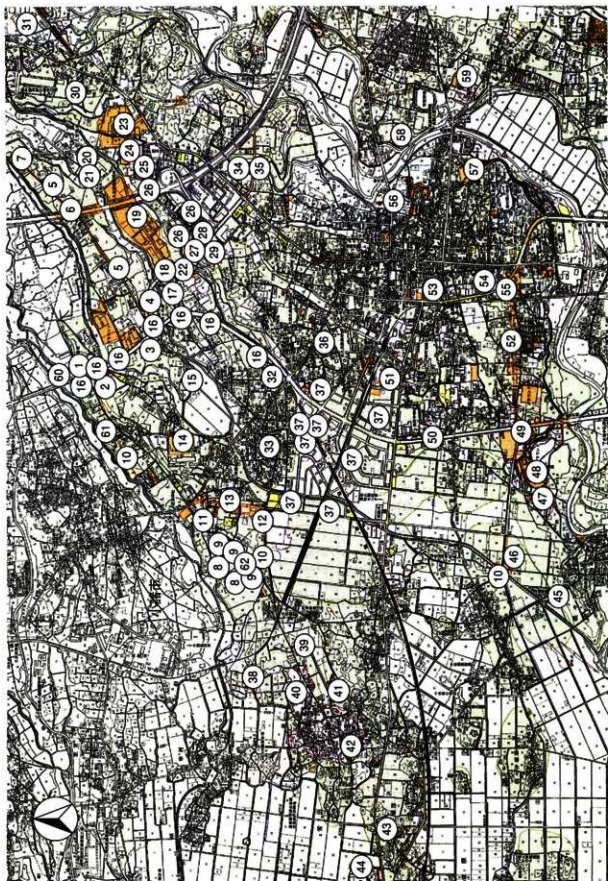
奈良・平安時代・周防畑遺跡群内では、下北原遺跡Ⅱから若干距離を置いた南西方向に広がる弥生～古墳時代の遺跡が密集する微高地上に集落が展開する。道路改良及び区画整理事業に伴い調査を実施した若宮遺跡・道常遺跡・南近津遺跡・宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ、大豆田遺跡Ⅰ・Ⅱ、工場建設に伴い行われた南近津遺跡（11）から多くの遺構・遺物が発見されている。奈良時代の住居址は比較的掘り込みが多く、形態も整った方形を示す。主柱穴は4本を基本とし、明確な掘り込みが多い。平安時代の前半期は、奈良時代同様の規模を示すが、後半期は全体に規模の縮小が認められる。カマドの設置箇所も、北壁あるいは東壁中央付近が主体であったが、平安末には南東隅に移り、出土する遺物量も減少する。

No.	遺跡名	所在地	種別	調査	備考
1	下北原遺跡Ⅰ	長土呂	○	○	今般調査
2	下宮原遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂	○	○	219・20年度調査 佐久市第53集
3	上家山遺跡Ⅰ	長土呂字上家山	○	○	23年度調査 佐久市第13集
4	南上中原・南下中原遺跡	長土呂字上中原他	○	○	563年度調査 佐久市第23集
5	上茅宮遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	長土呂	○	○	118・7・9年度調査 佐久市第88集
6	下柳原遺跡Ⅰ～Ⅲ	長土呂	○	○	H16～7年度調査 佐久市第82集
7	若宮遺跡	長土呂字下中中原他	○	○	H4～6年度調査 浅間文化センター第39集
8	下柳原遺跡Ⅳ	長土呂	○	○	H15・16年度調査 佐久市第133集
9	南近津遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	長土呂	○	○	H22・23年度調査 佐久市第207集
10	北近津遺跡Ⅰ	長土呂	○	○	H18～20年度調査 佐久市第208集
11	大豆田遺跡Ⅰ	長土呂	○	○	H18年度調査 佐久市第165集
12	西・東家地頭Ⅰ	12家字家地頭	○	○	
13	南近津遺跡Ⅱ	長土呂南近津	○	○	H21年度調査 佐久市第177集
14	大豆田遺跡Ⅱ	長土呂	○	○	H17・18年度調査 佐久市第156集
15	若宮遺跡Ⅱ	長土呂	○	○	
16	道常遺跡	長土呂	○	○	H21・22年度調査 佐久市第198集
17	宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字南下北原	○	○	
18	南上中原遺跡Ⅰ・Ⅱ	長土呂字南下家山	○	○	22・23年度調査 佐久市第193集
19	南上中原遺跡Ⅲ	長土呂字上家山	○	○	25・7年度調査 佐久市第69集
20	上家山遺跡Ⅱ	長土呂字上北原	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
21	上家山遺跡Ⅲ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
22	上家山遺跡Ⅳ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
23	上家山遺跡Ⅴ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
24	上家山遺跡Ⅵ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
25	上家山遺跡Ⅶ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
26	上家山遺跡Ⅷ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
27	上家山遺跡Ⅸ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
28	上家山遺跡Ⅹ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
29	上家山遺跡Ⅺ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
30	上家山遺跡Ⅻ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
31	上家山遺跡Ⅼ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
32	上家山遺跡Ⅽ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
33	上家山遺跡Ⅾ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
34	上家山遺跡Ⅿ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
35	上家山遺跡ⅰ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
36	上家山遺跡ⅱ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
37	上家山遺跡ⅲ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
38	上家山遺跡ⅴ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
39	上家山遺跡ⅵ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
40	上家山遺跡ⅶ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
41	上家山遺跡ⅷ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
42	上家山遺跡ⅸ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
43	上家山遺跡ⅹ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
44	上家山遺跡ⅺ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
45	上家山遺跡ⅻ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
46	上家山遺跡ⅼ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
47	上家山遺跡ⅽ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
48	上家山遺跡ⅾ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
49	上家山遺跡ⅿ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集
50	上家山遺跡ⅿ	長土呂字上家山	○	○	H1年度調査 佐久市第9集

厩辺遺跡表(1)

№	道 路 名	所 在 地	種 別	国	道	中	近	備 考
21	聖原通	長土島字聖原						H5年度調査 佐久市第33集
22	聖原通X	長土島字上塩浦						H7年度調査 佐久市第55集
23	廣瀬通							H8・9年度調査 佐久市第68集
24	上久保通							H2年度調査 佐久市第5集
25	百保通							H1～4年度調査 佐久市第15集
26	曾根通	長土島字新橋						
27	曾根通	長土島字新橋						
28	上久保通	長土島字上久保						
29	上久保通	長土島字上久保						
30	上久保通	長土島字上久保						
31	上久保通	長土島字上久保						
32	上久保通	長土島字上久保						
33	上久保通	長土島字上久保						
34	上久保通	長土島字上久保						
35	上久保通	長土島字上久保						
36	上久保通	長土島字上久保						
37	上久保通	長土島字上久保						
38	上久保通	長土島字上久保						
39	上久保通	長土島字上久保						
40	上久保通	長土島字上久保						
41	上久保通	長土島字上久保						
42	上久保通	長土島字上久保						
43	上久保通	長土島字上久保						
44	上久保通	長土島字上久保						
45	上久保通	長土島字上久保						
46	上久保通	長土島字上久保						
47	上久保通	長土島字上久保						
48	上久保通	長土島字上久保						
49	上久保通	長土島字上久保						
50	上久保通	長土島字上久保						
51	上久保通	長土島字上久保						
52	上久保通	長土島字上久保						
53	上久保通	長土島字上久保						
54	上久保通	長土島字上久保						
55	上久保通	長土島字上久保						
56	上久保通	長土島字上久保						
57	上久保通	長土島字上久保						
58	上久保通	長土島字上久保						
59	上久保通	長土島字上久保						
60	上久保通	長土島字上久保						
61	上久保通	長土島字上久保						
62	上久保通	長土島字上久保						

周辺道路表(2)



周辺遺跡位置図

周辺の浸食谷を隔てた芝宮遺跡群、長二呂遺跡群、西近津遺跡群等の発掘調査例からも、この時代、集落の形成が見受けられる。高防畑遺跡群・長二呂遺跡群などの遺跡周辺は、延喜式に記されている佐久郡8郷の一つである大井郷の比定地と推定され、発掘調査によって「大井」と記された墨書・刻書土器が発見されている。さらに、佐久市内において古瓦が出土する数少ない地域として以前から周知されており、周辺地域からは平瓦・丸瓦に加え、工場造成地の残土及び小学校築館に伴う調査等によって7世紀末と考えられる川原寺式軒丸瓦が発見されている。瓦を葺いた寺院など公的な建造物の存在が窺われる。また、付近は古京白濱が通過していたと推定されており、さらに、長土呂遺跡群周辺に佐久郡衙が所在していた可能性も考えられていることから、周防畑遺跡群を含めた一帯に安定した集落が形成された要因になったと考えられる。

中世・近世一中世では、調査区南西の遺跡が密集する地域に所在する遺跡(13)から15～16世紀と考えられる壑穴状遺構、二坑、井戸柱等の遺構が発見され、南方の瀬川左岸に長土呂館跡が所在する。長土呂館を構えた人物の断定はできないが、佐久市志には「鎌倉時代に北条氏に近い藤原氏によって構築されたと考えられるのが妥当であろう」と記されている。遺構は見土目上ほとんど現存しないが、東西120m、南北135m程度の範囲の外側に濠を巡らせ、内側に1.5m程度の土塁があったと推定されている。また、北東方向の瀬川右岸崖に沿いに金井城(31)が存在する。発掘調査によって遺跡の細網が広い範囲で確認されている佐久地域でも代表的な城郭である。城域は20万㎡を越える広さを持ち、築城は16世紀代と考えられている。発掘調査は、昭和63年～平成2年にかけて工場団地造成工事に伴い約80,000㎡の調査が実施された。この郭の一部、三郭、北郭の大部分、外郭の2/3以上の構造が明らかとなり、城内からは壑穴建物址、土坑、掘立柱建物址、堀・溝状遺構、土器類遺構が発見されている。さらに、金井城のやや下流である南北方向に相長い右岸段丘上には、大井氏の築城と考えられる大井城(56)(北から石並城・玉城・黒岩城)が存在する。現在岩村田市街地となっている周辺地域一帯は城下町として栄えていたとされ、大井城(黒岩城)の発掘調査からはすり鉢、石臼などの遺物が多数出土している。しかし、戦国期に入ると、文明16年(1484)に村二氏の攻撃を受けるなど、幾度となく戦乱に巻き込まれ、衰退の一途をたどった。

この他にも、佐久市全域をみると多数の館跡、城跡が存在し、多くは、この地域特有の浅間山の麓から放射状に延びる浸食谷に分断された台地上及び佐久平に向かって東側の山地から突き出た丘頂地の自然地形を利用して築城されている。

### 第3節 発見された遺構と遺物

遺構 壑穴生厩址-1軒(古墳時代前期) 土坑-8基(縄文時代後期他) ビット-146個  
遺物 縄文土器(深鉢) 土器器(鉢・高坏?) 石器(石鏃)

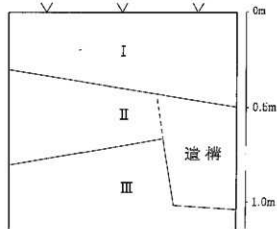
### 第4節 基本層序

遺跡は、浅間の麓から放射状に延びる浸食谷に突かれた「田切り」地形の縦長い台地北西端部に立地する。この付近は、現在の浅間山が形成される過程で噴出した軽石流が基盤となっており、この上を現在の表土である耕作土が覆っている。今回、調査を実施した地域の基本層序は以下のとおりである。

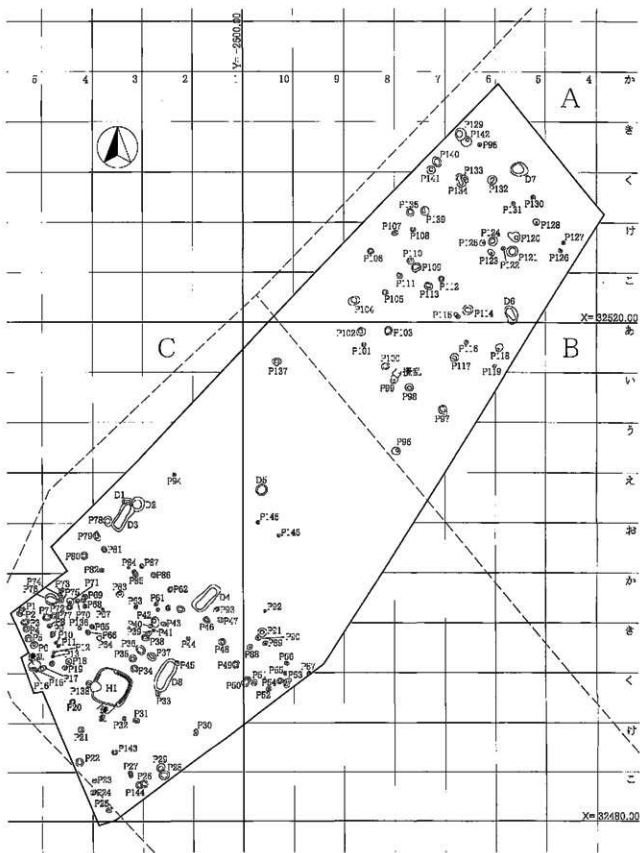
I層は層厚30～50cmを測る暗褐色土の耕作土である。

II層は層厚10～50cmを測る黒褐色土層で、地形が低くなる調査区南西側一帯に堆積が認められる。地形の高い調査区北東側にも存在していたと思われるが、地質造成段階で完全に削り取られた状況が認められる。遺構はII層から掘り込まれているが不鮮明である。

III層は浅間山の噴出物である第一軽石流の黄褐色ロームで、遺構の確認が明確にできる。調査区中央付近は、下層の白色及び淡い赤色ロームまで削り取られている。

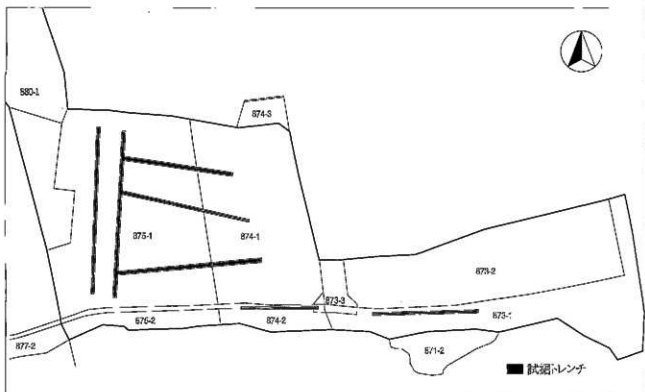


基本層序模式図

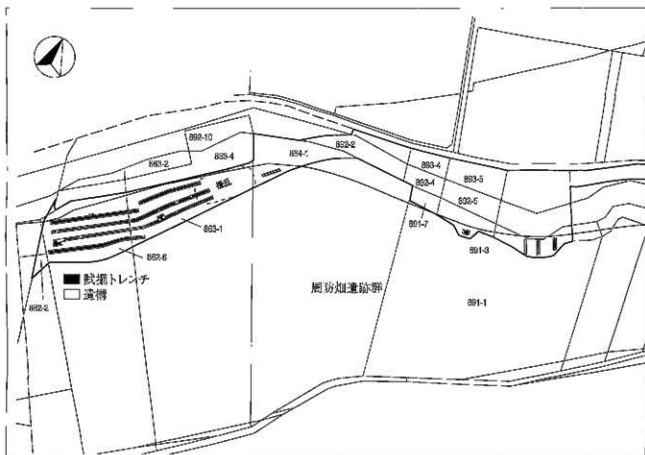


周防畑遺跡群 下北原遺跡工遺構配置図 (1:300)





現場掘削予定地試掘調査図



進入道路及び代替地試掘調査図



### 第Ⅲ章 遺構と遺物

#### 第1節 竪穴住居址 (H)

##### H1号住居址

遺構はC-く-3グリッドに位置する。主軸はN20°Wである。

平面形態はやや隅の丸い方形である。

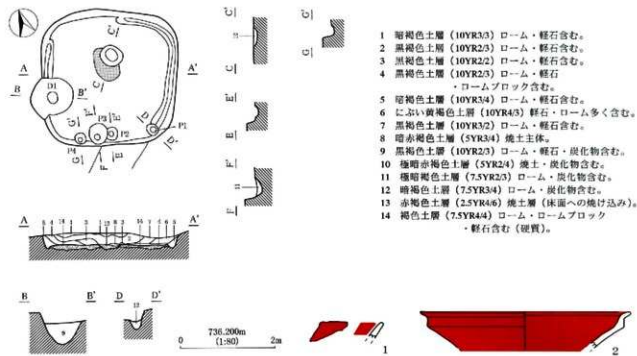
調査規模は長軸3.0m、短軸2.8mと小型で、検出面から床面までの深さは最深で30cmを測る。

覆土は暗褐色と黒褐色土主体で、周辺部から堆積した状況が認められることから自然堆積と考えられる。

構造上の特徴として、床は硬質面が存在するがやや凹凸感がある。壁際の一部に壁溝が認められた。主柱穴と断定できる明確なピットは存在しなかったが、南壁際に小ピットが存在した。入口に関係する可能性が窺える。床面中央のやや北寄りに径45cm、深さ8cmの炉が存在し、窠み及び炉の西から南側に接して床面が赤く焼けて硬質化していた。西壁には、僅かに壁から張り出す状態で掘り込まれた直径90cm、深さ50cmの円形を呈する土坑が存在する。掘方は厚さ5~8cmを測る硬質な層が認められた。

遺物は赤色塗彩の土師器高坏の坏部口縁と考えられる破片等が数片出土した。

本住居址の時期は、赤色塗彩された土師の形状及び住居址にカマドが認められず、炉が存在することから、古墳時代前期としたい。



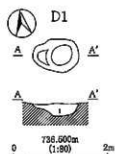
H1号住居址遺構・遺物実測図

番号	遺構	番号	1995年	2005年	2010年	調査・文献	発掘・調査	備考
1	土坑	D5	-	-	-	内務省彩色写真	1996年	発掘・調査・彩色写真
2	土坑	D3	722	-	723	内務省彩色写真	1996年	発掘・調査・彩色写真

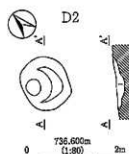
H1号住居址遺物表

#### 第2節 土坑 (D)

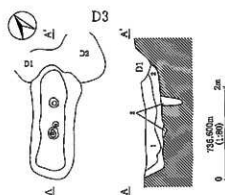
陥穴・貯蔵穴・ゴミ穴等と考えられる掘り込みである。ピットと区別するために、直径90cm以上2.5m未満の掘り込みを上坑として取り扱った。D5号土坑は縄文時代後期の土器が比較的多く出土した。D3号土坑及びD4号土坑は掘り込みの形状及び底面に杭を差し込んだと思われる小ピットが存在すること、付近に縄文土器を出土したD5号土坑が存在することから縄文時代の陥穴と考えられる。



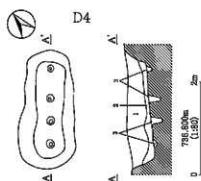
1 褐色土層 (10YR4/4) ローム多く、暗褐色土・礫石含む。



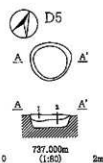
1 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・礫石含む。



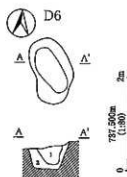
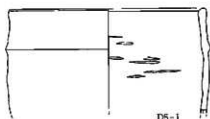
1 黒褐色土層 (10YR2/2) コーム・礫石・炭化物・ロームブロック含む。  
2 褐色土層 (7.5YR4/4) ローム主体。礫石・暗褐色土含む。  
3 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・礫石含む。しまりなし。



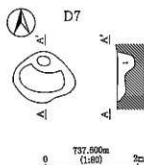
1 黒褐色土層 (10YR2/2) コーム・礫石・炭化物・ロームブロック含む。  
2 褐色土層 (7.5YR4/4) ローム主体。礫石・暗褐色土含む。  
3 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・礫石含む。しまりなし。



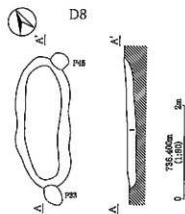
1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・礫石・炭化物含む。  
2 褐色土層 (10YR4/4) ローム・礫石・炭化物含む。



1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・ロームブロック・礫石含む。  
2 におい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム主体。礫石・暗褐色土含む。



1 赤褐色土層 (5YR4/6) ローム・ロームブロック多く含む。



1 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・礫石・炭化物・ロームブロック含む。

### 土坑遺構・遺物実測図

遺構名	形状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	位置	備考
D1	円形	1.00	0.70	0.10	C2.3	D24.24.4
D2	円形	1.20	1.00	0.10	C2.3	D24.24.4
D3	長円形	0.940	1.18	0.10	C2.3	遺物(燧石)と土層(10YR4/4)との境界線あり
D4	長円形	1.00	1.24	0.10	C2.1	遺物(燧石)と土層(10YR4/4)との境界線あり
D5	円形	0.70	0.70	0.10	C2.3	D24.24.4
D5-1	長円形	1.30	0.80	0.10	A.2.3	
D5-2	長円形	1.30	1.10	0.10	A.2.3	
D6	長円形	0.940	1.18	0.10	C2.3	D24.24.4
D7	円形	0.70	0.70	0.10	C2.3	D24.24.4
D8	長円形	0.940	1.18	0.10	C2.3	D24.24.4

### 土坑観察表

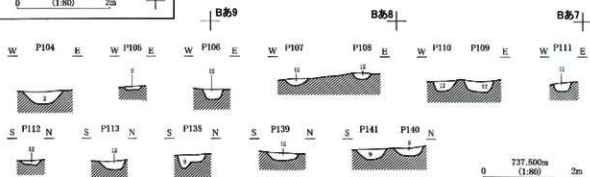
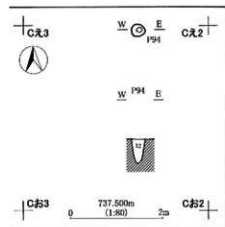
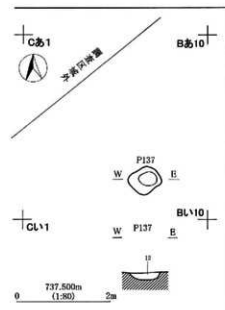
( ) 調査地 ( ) 検出地

番号	目録	箇所	115cm	135cm	155cm	調査・文書	調査者・施設	備考
1	縄文土器	探検	121.21	-	-	1.調査地ナア 検定調査 内線検ナア	1.180-1 調査所	内線検ナア P137-4 縄文土器 探検文書
2	縄文土器	探検	-	63	-	高橋中平探検	高橋健吉	内線検ナア P137-4 "縄文土器"

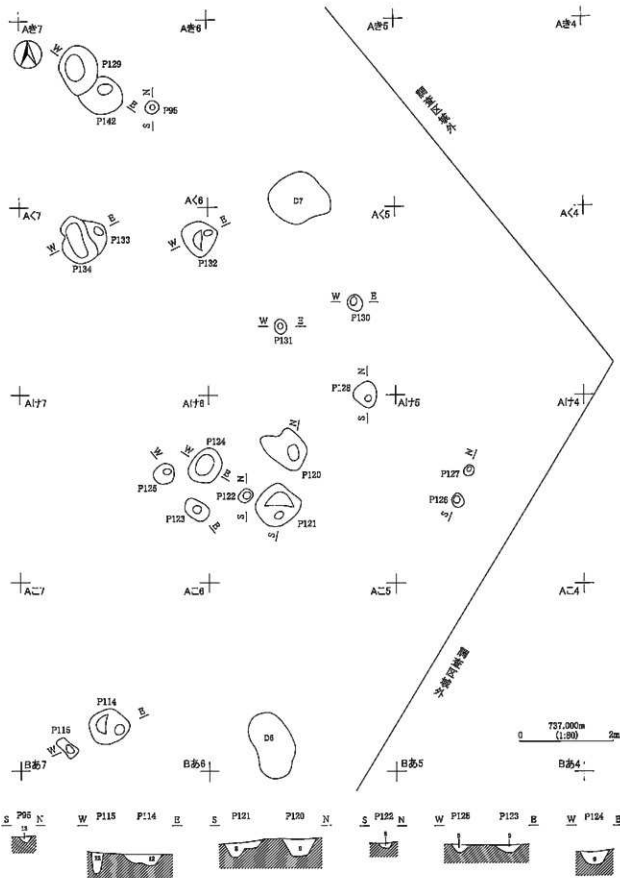
### D5号土坑遺物観察表

#### 第3節 ビット(P)

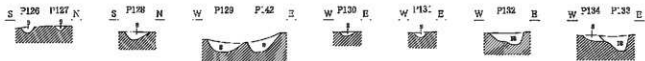
柱状のものを建てたと考えられる掘り込みで、掘立柱建物址のように規則性を持った配列を持たない単独の掘り込みである。土坑と区別するために、基本的に直径90cm未満の掘り込みをビットとして取り扱った。



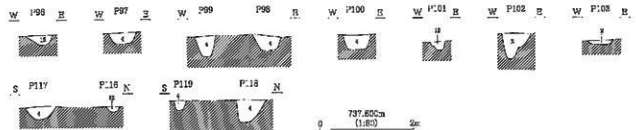
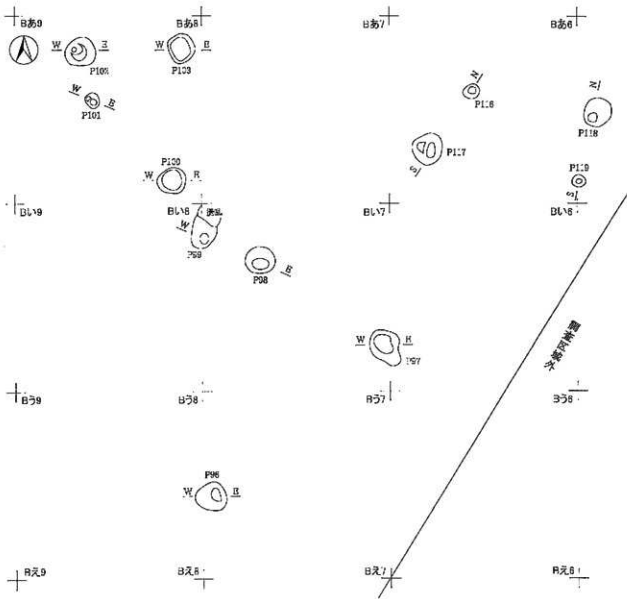
ビット実測図(1)



ピット実測図(2)

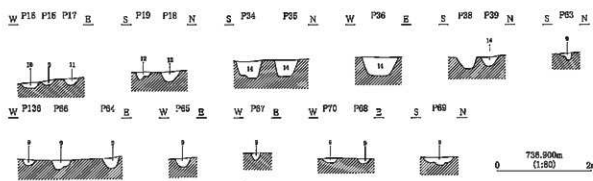
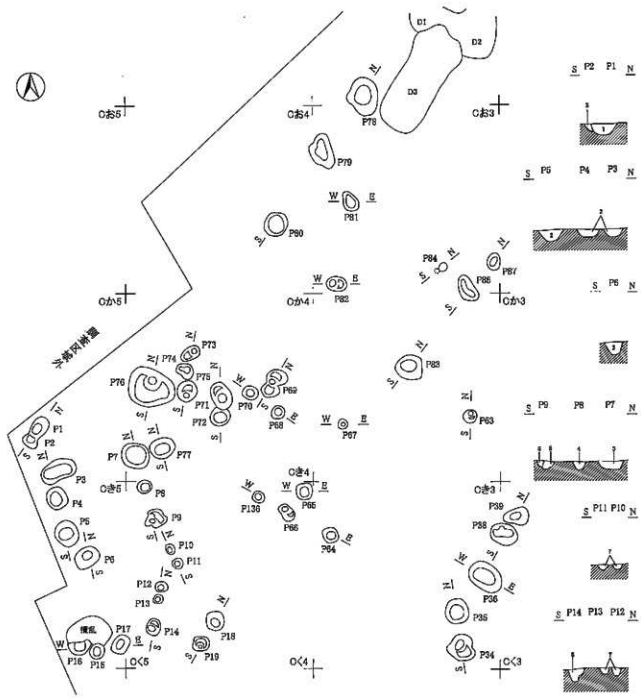


737.700m  
(1:80) 2m

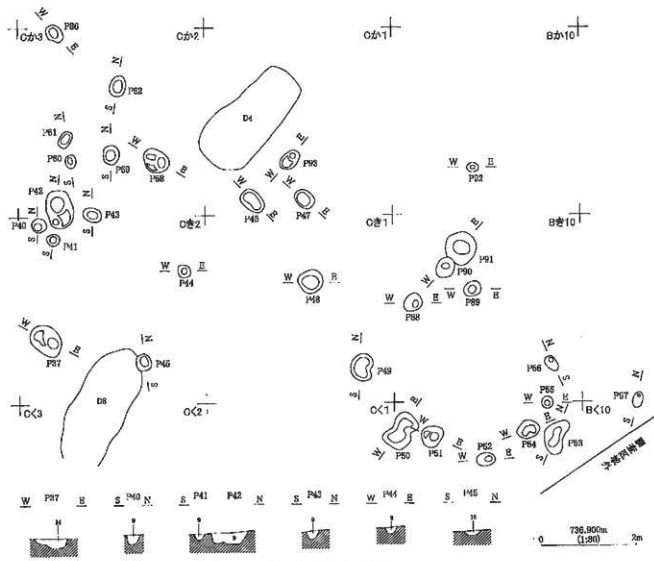
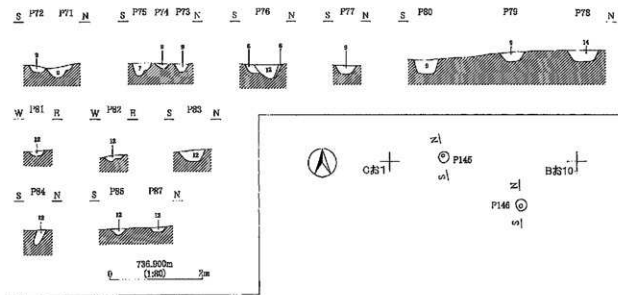


737.800m  
(1:80) 2m

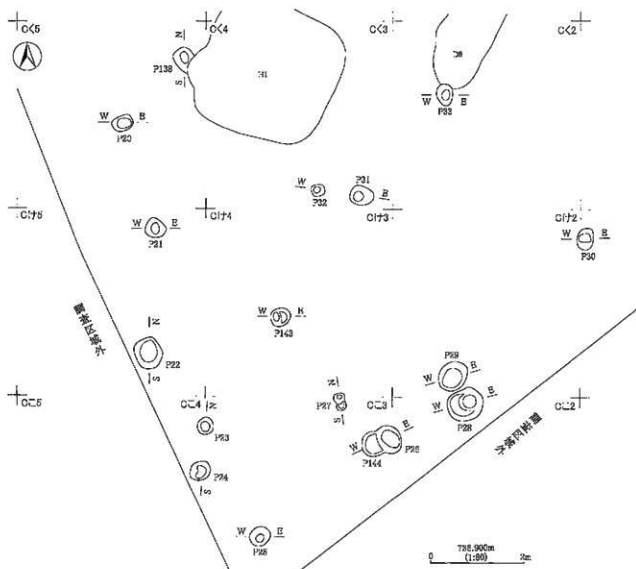
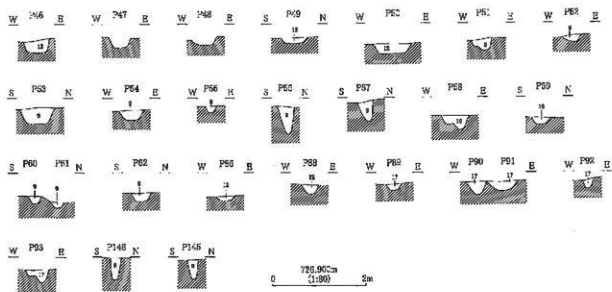
ピット実測図(3)



ピット実測図 (4)



ピット実測図 (5)



ビット実測図 (6)



W P20 E W P21 E S P22 K S P24 P23 M W P25 E W P144 P26 E S P27 N



W P28 E W P29 E W P30 E W P33 E



W P32 P31 R S P138 N W P142 E



730.00cm  
(1:50) 2m

- 1 暗褐色土層 (10YR3/2) 礫石含む。
- 2 暗褐色土層 (10YR3/2) ロームや中多く、礫石含む。

- 3 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック・礫石含む。
- 4 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームや中多く、ロームブロック含む。
- 5 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム含む。しりなし。
- 6 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。
- 7 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム・ロームブロック・礫石含む。
- 8 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多く、礫石含む。
- 9 暗褐色土層 (10YR3/2) ローム・礫石含む。
- 10 暗褐色土層 (10YR3/2) コームブロックや中多く、礫石含む。
- 11 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム少量、礫石含む。
- 12 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・礫石含む。
- 13 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム多量に含む。
- 14 黒褐色土層 (10YR2/2) コームブロック・礫石含む。
- 15 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム含む。
- 16 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・礫石含む。
- 17 暗褐色土層 (10YR3/2) ローム・灰色ローム・礫石含む。
- 18 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロック・礫石含む。
- 19 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム・礫石含む。
- 20 暗褐色土層 (10YR3/2) ローム・礫石や中多く含む。

ピット実測図 (7)

遺構名	形 状	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土 層	備 考
P1	横円形	5.20	3.3	2.1	C6-6	切り合い - P2
P2	円形	3.0	3.0	1.6	C6-6	切り合い - P1
P3	横円形	7.0	4.4	1.6	C6-6	
P4	方形	4.8	4.4	1.7	C8-5	
P5	円形	3.6	4.0	2.5	C8-5	
P6	方形	3.3	4.1	2.0	C8-5	
P7	方形	3.0	3.4	1.8	C6-4	
P8	円形	3.0	3.0	1.4	C8-1	
P9	不整形	4.0	3.2	1.0	C6-1	
P10	円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P11	円形	3.5	3.5	1.3	C2-4	
P12	方形	3.7	3.2	1.8	C6-1	
P13	方形	3.0	3.1	1.4	C6-4	
P14	横円形	3.7	3.0	2.0	C6-1	
P15	円形	3.0	3.1	1.5	C8-5	掘進にともなう
P16	円形	3.2	3.0	1.2	C2-5	掘進にともなう
P17	方形	4.2	3.1	1.5	C8-5	
P18	方形	4.2	4.0	2.2	C2-4	
P19	方形	3.8	3.4	1.7	C6-4	
P20	黒丸方形	4.8	3.2	1.2	C1-4	
P21	黒丸方形	4.5	4.0	1.5	OH-1	
P22	横円形	3.0	3.6	2.4	OH-1	
P23	円形	3.0	3.0	1.6	C6-4	
P24	円形	4.2	4.8	3.3	C2-4	
P25	円形	4.2	4.6	3.0	C2-3	
P26	横円形	3.4	3.0	2.5	C2-3	
P27	方形	3.0	3.5	2.0	C2-3	
P28	黒丸方形	7.0	6.6	2.1	C1-2	
P29	横円形	3.0	3.6	2.2	OH-1	
P30	横円形	4.8	3.6	1.4	C2-1	
P31	横円形	3.6	3.1	1.6	C2-3	
P32	方形	3.0	2.7	1.8	C2-3	
P33	横円形	4.7	3.0	1.8	C2-3	3ヶ所ある
P34	不整形	3.0	2.7	2.0	C2-3	
P35	円形	3.4	3.0	2.4	C8-3	
P36	横円形	3.0	3.6	2.0	C8-3	
P37	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P38	横円形	3.6	3.6	2.4	C8-3	
P39	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P40	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P41	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P42	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P43	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P44	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P45	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P46	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P47	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P48	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P49	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P50	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P51	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P52	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P53	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P54	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P55	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P56	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P57	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P58	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P59	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P60	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P61	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P62	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P63	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P64	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P65	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P66	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P67	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P68	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P69	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P70	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P71	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P72	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P73	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P74	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P75	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P76	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P77	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P78	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	
P79	横円形	3.0	3.0	1.2	C6-4	

ピット観察表 (1)

(1) 観察表 (1) 観察表

遺跡名	形 態	長径(m)	短径(m)	高さ(m)	位 置	備 考	遺跡名	形 態	長径(m)	短径(m)	高さ(m)	位 置	備 考
F73	不整形	77	47	30	C&J		F113	楕円形	65	35	30	A27	
F80	円形	56	48	30	C&J		F114	円形	87	76	25	A26	
F81	不整形	51	32	10	C&J		F115	方形	48	23	45	A28	
F82	楕円形	45	31	12	C&J		F116	円形	26	24	12	B&A	
F83	方形	59	53	25	C&J		F117	円形	70	62	28	B&A	
F84	円形	23	18	30	C&J		F118	円形	61	27	30	B&A	
F85	楕円形	62	36	15	C&J		F119	円形	30	30	20	B&A	
F86	楕円形	41	32	10	C&P2		F120	不整形	124	74	30	A15	
F87	円形	36	29	10	C&J		F121	円形	100	94	32	A15	
F88	楕丸方形	40	25	21	D310		F122	方形	31	24	13	A15	
F89	楕丸方形	40	32	14	D310		F123	楕円形	58	34	17	A16	
F90	円形	(57)	28	28	D310	壁の台座→F95	F124	楕円形	79	52	30	A16	
F91	円形	680	67	39	D310	壁の台座→F98	F125	円形	66	34	18	A16	
F92	楕円形	25	18	30	D310		F126	方形	32	23	14	A14	
F93	楕円形	39	32	38	C&J		F127	円形	20	22	10	A14	
F94	円形	39	29	50	C&J2		F128	円形	50	49	18	A15	
F95	円形	30	30	12	A&A		F129	楕円形	106	62	22	A&A	壁の台座→F142
F96	円形	68	64	22	D314		F130	円形	35	33	8	A15	
F97	不整形	86	68	26	36-7		F131	円形	32	29	10	A15	
F98	円形	61	61	25	36-7		F132	不整形	77	76	27	A14	
F99	楕円形	560	50	46	36-9	竪溝に穿られる	F133	-	26	260	22	A14	壁の台座→F131
F100	円形	43	58	32	B&A		F134	不整形	100	64	15	A14	壁の台座→F131
F101	円形	22	20	30	B&A		F135	楕円形	60	49	22	A17	
F102	円形	68	65	36	B&A		F136	楕丸方形	20	24	14	C&J	
F103	方形	60	56	9	B&A		F137	不整形	22	62	15	B&D1	
F104	楕円形	91	62	36	A1&A		F138	(方形)	48	(60)	20	C14	壁の台座→目1
F105	円形	43	42	10	A1&A		F139	楕丸方形	20	62	18	A17	
F106	円形	46	46	22	A1&A		F140	楕円形	23	38	20	A&T	
F107	楕円形	52	42	15	A1&A		F141	円形	60	66	24	A&T	
F108	楕円形	40	31	15	A17		F142	円形	95	83	33	A&A	壁の台座→F129
F109	不整形	76	61	23	A17		F143	円形	41	40	28	C13	
F110	円形	52	50	32	A17		F144	(円形)	56	(40)	12	C13	壁の台座→F20
F111	楕丸方形	30	30	18	A17		F145	円形	38	38	40	B&J10	
F112	不整形	50	42	10	A17		F146	円形	28	28	48	B&D10	

ピット観察表(2)

1: 測量点 2: 縄目線

#### 第4節 遺構外遺物



1 (A-17-7)



2 (B-9-7)



3 (A-17-7)

遺構外遺物実測図

番号	遺 構	形 態	1径(m)	2径(m)	高さ(m)	測 量・文 献	縄目線・部材	備 考
1	縄文土器	鉢形	-	-	-	遺ナマ	(1)鉢目線	内径約 2.5径約 4.0に凹凸 輪郭不明 スケッチ→アクリル
2	縄文土器	鉢形	-	-	-	遺ナマ	(1)鉢目線	内径約 2.0径約 4.0に凹凸・輪郭明 輪郭不明 スケッチ→アクリル
番号	遺 構	形 態	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	測 量・文 献	遺 構	備 考
3	柱礎	圓	1.61	1.05	0.36	尺貫-堀穴図	遺ナマ	全幅×厚 5.0→7.0アクリル

遺構外遺物観察表



周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ調査区全景（北東から）



周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ調査区全景（南西から）



調査開始前状況（南西から）



表土除去作業（南西から）



調査風景・表土除去作業（南西から）



表土排出状況（西から）



排出土状況（西から）



ハウス等設置・駐車場整地等状況（北東から）



基準杭設定状況（南西から）



調査風景遠景（南西から）



調査風景（南西から）



調査風景（南西から）



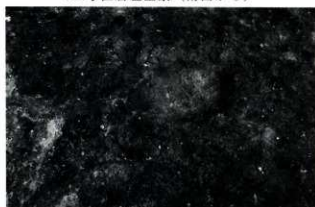
調査風景（南から）



H1号住居址全景（南西から）



H1号住居址土坑



H1号住居址炉



H1号住居址壁際ビット（北東から）



H1号住居址掘方（南西から）



D1・2・3号土坑全景（南西から）



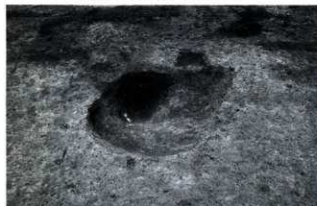
D4号土坑全景（南東から）



D5号土坑全景（西から）



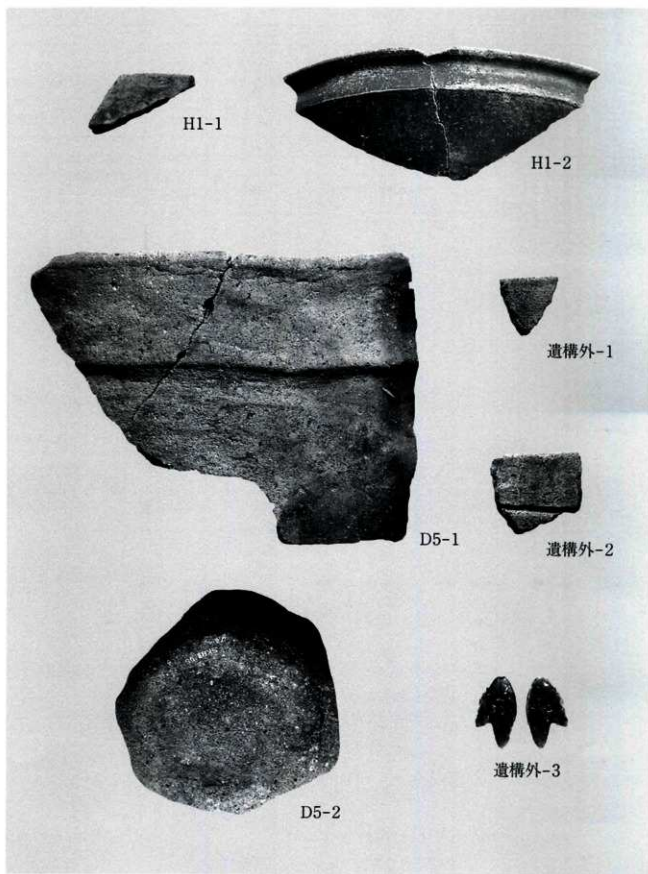
D6号土坑全景（南から）



D7号土坑全景（南西から）



D8号土坑全景（南東から）



ふりがな	すほうばたいせきぐん しもきたはらいせきに							
書名	周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ							
副書名	—							
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第228集							
編著者名	上原 学							
編集機関	佐久市教育委員会文化財課							
所在地	長野県佐久市志賀5953 TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323							
発行年月日	平成26年(2014)12月							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積㎡	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
すほうばたいせきぐんしもきたはらいせきに	さくしながとろ	20217	7	36° 17' 36"	138° 28' 14"	20140430 — 20140530	1.10	畜場施設建設事業(進入道路築造及び代替地の造成)
周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ	佐久市長土呂 862-6、863-1							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ	集落	古墳・縄文	竪穴住居址1軒、土坑8基、ピット146個		土器、石器	遺跡の状況が不鮮明であった地域から縄文時代の土坑、古墳時代前期の住居址等を確認することができた。		
要約	佐久市北部に発達した、渡瀬山の麓から放射状に延びる浸食谷に分断された田切り地形の台地上に位置する遺跡である。本遺跡が所在する周防畑遺跡群北部地域は、南方の佐久平原西側一帯の遺跡密集地に比べ、発見される遺構数が希薄な地域で、遺跡の状況が不鮮明な地域であった。今回、畜場施設建設事業に伴い、一部地域から、縄文時代の土坑、古墳時代前期と考えられる住居址1軒及び柱穴と思われる多数のピットが発見された。本調査区北西の浸食谷対岸に所在する緑田原遺跡(小幡市)及び北近津遺跡Ⅱでは、佐久地域で確認される遺構数が少ない、古墳時代前期の住居址が比較的多くあって発見されており、今回、浸食谷を隔てた、本遺跡で発見された単独の住居址との関連が興味深い調査となった。							

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第228集  
周防畑遺跡群 下北原遺跡Ⅱ

平成26年(2014)12月

編集・発行 佐久市教育委員会  
〒385-8501 長野県佐久市中込3056  
文化財課  
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953  
TEL 0267-68-7321

印刷所 臼田活版株式会社  
〒384-0301 長野県佐久市臼田2016  
TEL 0267-82-2109